

その1 植物

杉野孝雄



チゴユリ



タシロラン



スルガテンナンショウ

ふじのくに地球環境史ミュージアムに隣接して、自然観察路が造られています。県立静岡南高校時代に造成され観察路ですが、静岡県自然史博物館ネットワークがミュージアムと協働で整備し一般に公開しています。そこで見られる生物が調査されているので、その中の植物を紹介します。

自然観察路で見られる植物は2017年の調査では320種類ほどが確認されています。道沿いはオオベニウツギやヒラドツツジなど園芸種の花木が植えられ観察路を彩っています。周囲は海岸に近い丘陵地の樹木、スダジイ、シロガモ、タブノキなどに、アカメガシワ、クサギ、カラスザンショウなど二次林要素の樹木が混ざり林を構成しています。草本類は外来植物も侵入していますが、低地の在来種が多数観察できます。シダ植物は40種類ほどが分布しています。

延長約1kmほどの観察路ですが観察できる植物の種類は多く、花は季節で移り変わり、春はノアザミやチゴユリ、静岡市の龍爪山で最初に発見された、スルガテンナンショウが独特な花を開き、秋はノコンギクやツリガネニンジンの花が目立ちます。無葉ラン類もあり、タシロ



ノアザミ

ランやクロヤツシロラン、クロムヨウラン、エンシュウムヨウランなどが分布していますが、この仲間は花を見て種名を確定したいと思いません。シダ植物ではフユノハナワラビが秋から冬に孢子葉を広げます。また、サワラとヒノキ、コナラとクヌギ、サカキとヒサカキなど類似植物を比較観察することもできます。